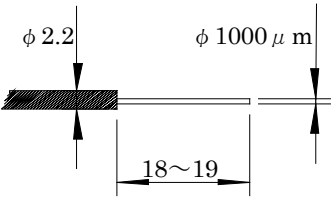

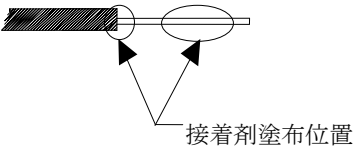
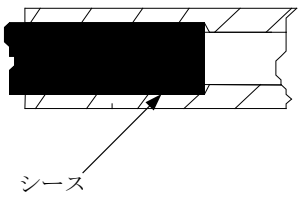
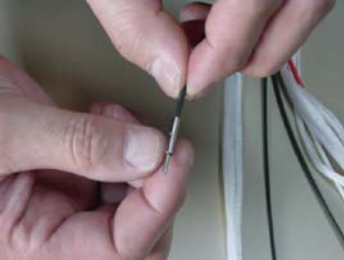
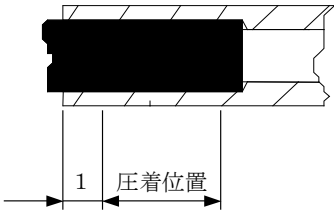

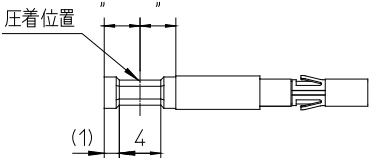
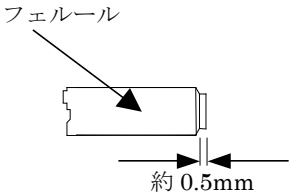
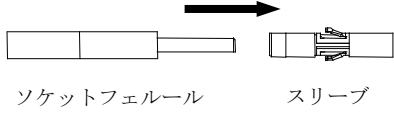


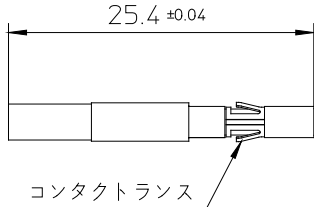


トリムトリオ 光コンタクト  
POF ワイヤリング説明書

No.	手 順	注 意 事 項
1	<p><b>光ファイバφ2.2 シースのストリッピング</b></p> <p>1-1. ストリッパー 80WD-0006 を使用します。 ストリッパーの刃(No.18)にケーブルを挿入します。(適用皮むき長 18~19mm)</p> <p>1-2. 挟み込んで引張るとシースが剥き取れます。</p> 	<p>ファイバーにダメージが加わらないように注意して下さい。</p>  <p>シースのストリッピング</p>
2	<p><b>ケーブルの接着</b></p> <p>2-1. ストリップしたファイバケーブルに接着剤を塗布します。下図を参考にして適量を塗布して下さい。 弊社推奨接着剤：45LV(80WG0014)</p>  <p>接着剤塗布位置</p> <p>2-2. 接着剤を塗布したファイバケーブルをコンタクトの後方から挿入します。ケーブルシース(φ2.2)がコンタクト圧着部の内壁に突き当たるまで完全に挿入します。</p>  <p>シース</p>	<p>接着剤は弊社でも用意しておりますが、通常、光ファイバに使用するエポキシ系のものであれば、弊社推奨以外でも問題ありません。</p>  <p>ケーブルをコンタクトに挿入</p> <p>オープンは弊社指定以外のものでも問題ありません。</p> <p>フェルールから飛び出した光ファイバの先端を折らないように注意して下さい。 必要な場合は弊社のゴムサポート(80WT0005)を使用してフェルール先端を保護して下さい。</p>

No.	手 順	注 意 事 項
3	<p><b>ケーブルの圧着</b></p> <p>3-3. 圧着工具 80WS-0002 を使用します。 圧着工具を一度空打ちさせて、ラチェットが開放され、完全に刃が開いていることを確認して下さい。</p> <p>3-4. 圧着工具の刃 (A) が、コンタクト後端より約 1mm の位置に当たるようにセットします。</p>  <p>3-5. コンタクトを圧着してケーブルに圧力を加えます。</p> <p>3-6. 工具が完全に作動するとラチェットが開放されて刃が開くので、コンタクトを取り出します。</p> <p>3-7. オープンを使用して接着剤を硬化します。 100℃、10～15 分で硬化します。</p>	 <p>コンタクトの圧着</p>  <p>ケーブル圧着位置</p>
4	<p><b>ファイバの切断処理</b></p> <p>4-1. 1 項で記された皮むき長 (18～19mm) が正しければ通常、ファイバの切断処理は必要ありません。次項 4 へ進んで下さい。</p> <p>4-2. フェルール先端からファイバが長く突出している場合はカット工具 80WD-0006 を使用して、突出量がおおよそ 0.5mm 程度になるようにカットして下さい。</p>	 <p>フェルール</p> <p>約 0.5mm</p>

No.	手 順	注 意 事 項
5	<p><b>フェルール端面の研磨</b></p> <p>5-1. 研磨用プレート 80WP-0005 について このプレートは底面の 6 個所に粘着性のあるストッパーがあり、研磨時に研磨用ディスクを固定することができます。プレート表面はきれいにし、割れたり、傷がつかないように注意して下さい。 プレートを使用するときは、必ずエタノールを用いて表面をきれいにして下さい。</p> <p>5-2. 研磨治具 80WP-0018 について この治具はコンタクトフェルールをセットして先端を研磨するときに使用します。</p> <p>5-3. 研磨用ディスクについて 粗研磨用 30<math>\mu</math>m (緑色) 80WP-0019 仕上研磨用 9<math>\mu</math>m (青色) 80WP-0014 これらのディスクはフェルール端面の粗研磨と仕上研磨に使用するもので、およそ 10 コンタクト分使用できます。</p> <p>5-4. 研磨作業</p> <p>粗研磨 30<math>\mu</math>m (緑色) のディスクを使用し、8 の字を描くように軽く研磨します。研磨紙に金属の黒い後が見られたら、すぐに止めて、外観チェックをして下さい。</p> <p>仕上研磨 9<math>\mu</math>m (青色) のディスクを使用し、8 の字を描くように軽く研磨します。 (回数は 5~10 回ほど) 研磨後はフェルール端面をエタノールでよく洗浄して下さい。</p> <p>研磨範囲 研磨範囲は最大 0.1 以内に研磨する。</p>	<p>ご購入後、最初に研磨用プレートを ご使用になるときは、プレート表面に貼付されている保護用フィルムを剥がしてからお使い下さい。</p> <p>仕上研磨の途中では、ディスクを交換しないで下さい。仕上がりにムラが発生することがあります。</p> <p>ディスクの寿命を延ばすために、使用後はその都度エタノールで洗浄して下さい。</p> <div data-bbox="879 801 1145 1003" data-label="Image"> </div> <p>粗研磨</p> <div data-bbox="879 1066 1145 1267" data-label="Image"> </div> <p>仕上研磨</p> <div data-bbox="927 1330 1203 1435" data-label="Image"> </div> <p>研磨時の 8 の字動作</p> <div data-bbox="970 1536 1203 1697" data-label="Image"> </div> <p>研磨範囲</p>
6	<p><b>研磨面の検査</b></p> <p>拡大鏡 80WL-0001 を用いて検査します。ファイバ端面に割れや大きな傷がないかどうか確認して下さい。</p> <p>ピンコンタクトはこれで完了です。 ソケットコンタクトのみ 7 項へ進んで下さい。</p>	<p>拡大鏡</p> <div data-bbox="930 1888 1240 2067" data-label="Image"> </div>

No.	手 順	注 意 事 項
7	<p><b>ソケットコンタクトの組立</b></p> <p>7-1. 圧入工具 T-RCPF3H-01 を使用します。            検査の終了したソケットフェルールとスリーブに軽く挿入します。</p>  <p>ソケットフェルール      スリーブ</p>  <p>7-2. 下図のように工具にセットして工具をゆっくりと作動させ、圧入を完全に行ってください。</p>  <p>7-2.工具のラチェットが開放されて刃からコンタクトを取り出すと完了です。</p>	<p>圧入工具取り扱い説明書参照：IJM-T-RCPF3H01</p> <p>コンタクトランスを変形させないように組立時の取扱いには十分注意して下さい。</p> <p>ソケットスリーブ組立後寸法確認            確実にスリーブが圧入できていることを確認して下さい。</p> 
8	<p><b>その他</b></p> <p>8-1. コンタクト装着済、未嵌合コネクタについては、水、油はもとより、防塵についても十分に配慮する。</p> <p>8-2. ピンコンタクトを曲げたり、ソケットコンタクト内部に異物を差し込んだりすると、正しい接触ができなくなる場合がある。</p> <p>8-3. 保管条件</p> <p>    温 度      30°C 以下</p> <p>    湿 度      60% 以下</p>	